平成３０年２月２８日

第１６４号

関東の森林から

国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/

八海山（はっかいさん）
撮影者：中越森林管理署及び新潟県イヌワシ保全研究会　池田 修 氏

国有林材の安定供給の取組　資源活用課・・・２

木材利用を推進する関東森林管理局の治山工事　治山課・・・４

高尾の森から　高尾森林ふれあい推進センター・・・５

森づくり最前線 福島森林管理署白河支署
大屋森林事務所 首席森林官 高林昭雄・・・６

『国有林材の安定供給の取組』

森林整備部　資源活用課

【国有林材の販売の仕組み】

今、我が国の人工林は本格的な利用期を迎えています。豊富な森林資源を循環利用し、林業・木材産業の成長産業化を図っていくため、関東森林管理局では国有林材の安定供給に取り組んでいます。

国有林からの木材の供給方法は、立木販売（りゅうぼくはんばい）と素材販売（そざいはんばい）の二つがあります。

立木販売は、樹木が山に生えている状態（立木）で販売する方法です。立木を購入した素材生産業者等は、立木を伐採し、丸太に加工して製材工場・合板工場・チップ工場等に直接販売したり、木材市場を通して販売します。

素材販売は、樹木の伐採、丸太への加工を民間事業者に請け負ってもらい、できあがった製品を販売する方法です。製品の販売は、製材工場等に直接販売するほか、木材市場等に販売を委託することもあります。

また、立木販売・素材販売とも、安定供給システムによる販売（「システム販売」）という仕組みがあります。製材工場等と安定供給に関する協定を締結し、協定の相手方に対し、素材（丸太）や立木を安定的・計画的に販売するものです。協定の相手方は公募しており、応募者からの提案内容を審査した上で、協定相手方を選定しています。

システム販売は、木材を必要とする方にとって、木材価格の変動に左右されず安定的に木材を入手でき、計画的な製品の生産と販売が可能となること、これまで十分に利用されていなかった材の新たな需要開発につながるといったメリットがあります。

関東森林管理局は、システム販売に積極的に取り組んでおり、平成29年度の素材（丸太）販売の7割がシステム販売によるものとなっています。

システム販売は、国有林材だけを販売するものではなく、国有林材と民有林材をあわせたシステム販売（「民国連携システム販売」）も行っています。国有林と連携してシステム販売を行うことを希望する民有林所有者等を広く募集して実施しています。

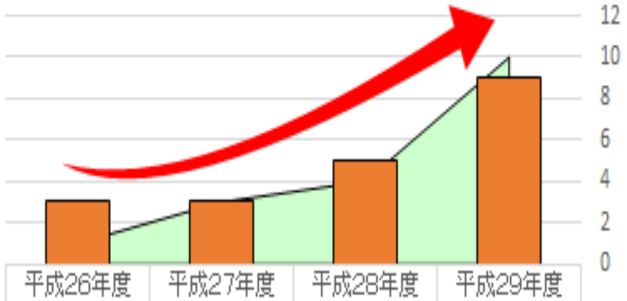
民国連携システム販売は、平成26年度から始まって年々、伸数が増えており、平成29年度は10件にまで拡大しています。民国連携システム販売に取り組んだ民有林所有者等からは、「ロットが小さかったため取引できなかった大手の需要者に対する販売が可能となった」、「これまで販売をあきらめて林地残材となっていた低質材を販売することができた」、「安定的な収入を見込むことが可能となった」、「市売りから直販になったことにより販売コストを減らすことができた」といった声が寄せられています。

関東森林管理局では、平成30年度、民国連携システム販売を更に拡大していきたいと考えています。

～ 民国連携システム販売による原木の安定供給 ～

関東森林管理局では、民国連携システム販売を年々、拡大しています。

平成26年度　3者(社)　1物件
平成27年度　3者(社)　3物件
平成28年度　5者(社)　4物件
平成29年度　9者(社)　10物件



	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
協定物件数	1	3	4	10
協定者数	3	3	5	9

【木材の需給・価格安定の仕組み】

林野庁では、地域の木材の価格や需給の動向を把握・分析し、国有林からの木材の供給量や供給時期の調整の必要性について検討するため、各森林管理局に国有林材供給調整検討委員会を、林野庁本庁に中央国有林材供給調整検討委員会を設置しています。

関東森林管理局では、学識経験者や関係事業者等の外部有識者で構成する「関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を四半期に一度開催し、国有林材の供給調整の必要性について検討しています。

関東森林管理局が管理する人工林の面積は、管内１都10県の民有林を含む人工林全体の21％に及んでいます。木材価格の急激な上昇や下降が発生した際は、国有林材の供給の量や時期を調整することにより、国内の木材需給や価格への悪影響の緩和に努めることとしています。

今後、消費税率10％への引上げを見越した住宅等の駆け込み需要、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック関係の特需的な需要の伸びなど、木材の需給バランスに変化が生じることも予想されます。国有林材供給調整検討委員会の議論を踏まえながら、木材の需給・価格の安定に貢献していきたいと考えています。

国有林材供給調整検討委員会

国有林材のストックポイント（吾妻署）

ニホンノウサギ（日本野兎）
45～54cm。雪の降る地方でのみ冬毛が白い。
冬でも巣穴を掘らず冬眠もせず、樹皮などを食べている。

きのこ特集
冬に発生するきのこ

エノキタケ（食用）
（キシメジ科　エノキタケ属）

皆さんが良く知っているエノキタケはスーパー等で売っている白くて細長いものだと思います。今回紹介する天然のエノキタケは、それと姿は違いますが、同じ種類です。

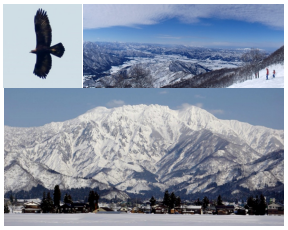
十一月下旬から二月上旬にかけて、広葉樹の切株や枯れた木に株で発生する束生です。カサは三～六センチで茶色から茶褐色で、表面は著しい粘性があります。ヒダは白色で、ヒダの付け根が柄に円を描く様に上方に接する上生です。柄は五センチから八センチくらいで表面は淡茶褐色、下部は黒色で、全体的に微毛があります。

今月の表紙
八海山（はっかいさん）

八海山（１７７８ｍ）は、新潟県南魚沼地方に位置し、古くから信仰の山として知られる霊山です。越後駒ヶ岳（２００３ｍ）、中ノ岳（２０３５ｍ）とともに越後三山（魚沼三山）と言われる山の１つで、越後三山只見国定公園地区に指定されています。八海山の山頂は八つの峰からなり、岩峰群をたどる道は非常に険しく、急峻な岩壁、鋭い山稜となっています。

この八海山の南側斜面一帯は国有林となっています。ブナ、ミズナラ等からなる原生的な天然林が多く、絶滅が危惧されているイヌワシをはじめ、野生動植物の生息・生育地となっています。変化に富んだ豊かな自然に恵まれ、関越自動車道や上越新幹線により首都圏から容易にアクセスできることから、登山やスキーなどの野外スポーツの場としても広く活用されています。

（イヌワシの写真撮影：新潟県イヌワシ保全研究会　池田修　氏）



木材利用を推進する関東森林管理局の治山工事

計画保全部　治山課

平成22年10月1日に「公共建築物等における木材利用の促進に関する法律」が施行されて7年が経過しました。農林水産省では、この法律に基づいて「新農林水産省木材利用推進計画」を策定しており、その中で公共土木工事においても木材利用を進めることとしています。関東森林管理局では、局の重点取組事項として治山工事における木材利用の徹底に取り組んでいます。

治山工事における木材利用については、当初、森林管理局や森林管理署等の担当者の中にも、様々な意見がありました。木材を治山工事に使用した場合、木材が工作物から脱離して流出することを心配する向きもありました。コンクリート工作物は、ひび割れ等が無く、表面が鏡のような仕上がりが良い仕上がりとの考えがあったため、コンクリートを固める型枠を木製にして、完成後も外さない「木製残置式型枠」については、コンクリートの表面が隠れて仕上がりの確認が出来ないとして、導入に懐疑的な見方もありました。

このため、流下の心配がない山腹工で使用したり、木製残置型枠は谷止工の上流側だけ使用し、下流側はコンクリートの品質を確認できる状態にするなど、施工や管理面で試行を繰り返しながら木材利用を進めてきました。

また、以前は工事に直接使用できる大きな構造の製品が市場になかったため、通常の丸太を利用する工種から導入していきました。間伐材等を用いた丸太による柵工（さくこう）（注1）や、木製残置式型枠などであり、施工業者も個々の形状が異なる丸太を使用することに慣れておらず苦労しました。

その後、メーカー等により木材を工事部材とした製品が開発され、例えば、丸太を縦使いしてコンクリート土留工などのカーブ部分に対応させることで、アーチ型の土留工を施工するといったこともできるようになりました。木材の短所である「腐蝕」についても、薬剤を加圧注入した耐用年数の長い製品が登場し、木材を使用できる工種工法の幅が広がりました。

現在では、当初から導入が進んでいた柵工、筋工などの山腹工における利用に加え、常時水が流れている沢の治山ダムなども木材を使用しています。木製の法枠工（のりわくこう）（注2）の利用も広がっています。

関東森林管理局では、治山工事を発注する際、仕様書の中で、本体工事や仮設工事における木材の利用を具体的にお願いしています。また、入札参加者から提出していただく技術提案書を評価する際、木材利用を推進する観点からの評価も行っています。このような取組の結果、治山工事で木材を利用可能な箇所については、ほぼ全て木材が使用されるようになってきています。

治山事業は、崩壊地等を復旧するだけでなく、木材利用の促進の担い手としても重要な位置づけとなっています。

（注1）柵工：山腹斜面に柵を設けて表土流出を防止するとともに背面を埋め戻し植栽環境を整えるもの

（注2）法枠工：山腹斜面に枠状の構造物を設置し、侵食、崩壊等を防止するもの

丸太残置型枠を使用した治山ダム

丸太残存型枠組立後
（コンクリート打設前）

木材を使用した柵工

木材を使用した法枠工

今回はフォレストサポートスタッフの活動を紹介します。

「フォレストサポートスタッフ」は、高尾森林ふれあい推進センターが実施する森林教室や体験林業等のイベントをサポートしていただく方で、毎年公募しています。

フォレストサポートスタッフは、報酬なしのボランティア活動で、委嘱期間は原則として1年間です。

委嘱式後の安全研修会

平成29年度のフォレストサポートスタッフは39名で、うち男性が30名、女性が9名です。60歳以上の方が多くなっていますが、現役の会社員などもいらっしゃいます。平成29年度は4月8日にフォレストサポートスタッフの委嘱式を開催し、当センター所長から委嘱証明証を授与しました。併せて、安全研修会を実施しました。

フォレストサポートスタッフは、当センターが各種イベントや森林教室等を開催するのに無くてはならない存在です。今年度は延べ約二〇〇名に参加・応援いただき、一人平均5日程度協力していただきました。フォレストサポートスタッフは、児童等の安全確保するために重要な要となっており、活動中は、当センターから貸与する名札、腕章、帽子、ベストを着用していただいています。

【森林教室】

今年度は、4月20日の東京都中央区立佃島小学校5年生一三四名を皮切りに、東京都内及び神奈川県内の27の小学校や特別支援学校の児童二、六五八名を対象に森林教室を実施しました。「地球温暖化、森林のはたらき、林業」や「林野庁（森林官）の仕事」などを学習するほか、森林散策や丸太切りを体験してもらいました。児童は10人前後の小グループに分かれ、それぞれのグループにセンター職員とフォレストサポートスタッフが2～3名ずつ付いて解説や技術指導を行いました。

小学校の森林教室

【各種イベント等】

幅広い世代の方に楽しみながら森林・林業への関心を持っていただくため、参加者を公募してイベントを今年度3回開催しました。8月19日は、「山の日」企画として親子で樹木の名前を覚えて森に親しんでいただく「子ども樹木博士と丸太切り」を、11月11日は、林業にとって厄介な存在である「つる類」を利用することにより、森林や林業について興味を持っていただく「つるかご編み」を、12月9日は、里山林の侵入竹を利用した竹炭作りと葉のない冬枝や冬芽を観察する「炭焼きと森林散策」をそれぞれフォレストサポートスタッフの協力を頂きながら開催しました。

このほか、一般の方を対象にした森林カレッジを4回開催し、36名の方々に参加いただきました。森林カレッジは、専門家の先生方による座学、下草刈り、除間伐等や炭焼きの体験作業、林内の実地見聞で構成されるイベントです。フォレストサポートスタッフにはセンター職員とともに準備や片付け、受講者に対する実技指導のサポート等を行っていただきました。

フォレストサポートスタッフ活動

その他の取組等については、当センターのホームページ（FOREST通信）にも掲載していますのでご覧下さい。

（http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html

森づくり最前線

福島森林管理署白河支署　大屋森林事務所　首席森林官　高林 昭雄

私の勤務する大屋森林事務所は、福島県中通り南部に位置する白河市の一部（旧大信村）、天栄村、須賀川市の国有林約７，１００haを管理しています。阿武隈川の支流の隈戸川上流にあって、標高４００～１，０００mの里山が多く、スギやヒノキの人工林地帯です。地域の水源地となっていることから、水源涵養機能の発揮を重視した管理経営を行っています。

また、国有林の一部はレクリエーションの森に設定して、広く国民の皆様に提供しています。その一つ、旧大信村にある聖ケ岩地域には、ビジターセンターやオートキャンプ場が設置されています。近郊の住民の皆さんの憩いの場として幅広く利用されているほか、毎年ゴールデンウィークに行われる権太倉山（標高９７１m）山開きには、県内外から多くの登山者や観光客が訪れて賑います。晴天時には山頂から猪苗代湖や羽鳥湖が望めます。

聖ケ岩キャンプ場

白河市郊外の赤仁田スポーツ林は、標高４５０m～７３０mの緩傾斜地で、ゴルフ場に隣接しています。ゴルフ練習場と管理棟が設置されており、主にゴルフ場の来場者に利用されています。

管理している国有林では、下刈、除伐、保育間伐等を実施し、森林整備を進めています。

東北自動車道矢吹ＩＣ近くにある中新城地域には、石炭・石油などの化石燃料に変わる自然再生エネルギーとして、間伐材等を燃料にした木質バイオマス発電所があり、今後、森林系チップの受け入れ量が増加していくと見込まれます。森林再生・林業の活性化につながると期待されており、国有林材もお役に立てるようにしていきたいと考えています。

権太倉山山頂からの羽鳥湖

なお、旧大信村の国有林の一部には、東京電力福島第一原発事故の影響で、空間線量が比較的高い場所がスポット的にあり、木材の伐採や搬出を見合わせている箇所があります。そういった箇所については、定期的に空間線量を計測し、今後、線量が低下したことが確認できた森林の木材の伐採や搬出を再開することとしています。

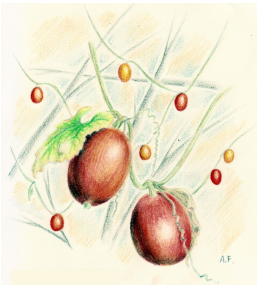
近頃、国有林内で、アカマツ枯れの倒木が多く見受けられるようになっています。地元からの要望もお聞きしながら、住宅・幹線道路への被害が想定される枯木については優先的に処理しています。

マツクイ虫によるアカマツ枯れ被害は年々拡大しており、森林の経済的機能と公益的機能の調和を図りつつ、植栽から収穫に至るまで虫害等に強い森林づくりに取り組む必要性を感じています。

中新城地域のバイオマス発電所

また、管内には国と契約を結んで国有林に木を植えて一定期間育てた後、樹木を販売し、その収益を国と一定の割合で分け合う「分収造林」が多く、今その多くが伐採時期を迎えています。契約相手方の方に現在、国有林が取り組んでいる低コスト化対策等の情報を提供しながら、未来ある森林づくりに努め、「地方創生」へ繋がるよう引き継いでいきたいと思います。

これからも地域の要望・要請をよくお聞きし、地域の期待に応えられるよう尽力するとともに、林業の成長産業化に貢献出来るよう「より良い森林づくり」に微力ながら邁進したいと思います。



カラスウリ（烏瓜）
つる性の草本。手のひら大の赤い実は
葉が枯れた後も残り、冬の林内でよく目立つ。

発行所　関東森林管理局
編集　総務課
■TEL（027）210-1158
■FAX（027）230-1393